

農推第1149-9号
令和元年12月16日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（12月）

大阪府内の12月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
果樹の休眠期防除の時期です。次の収穫のためにしっかりと対策しましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎ 「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

目次

1 水稲	P.1
2 果樹(温州みかん、バラ科果樹)	P.2~3
3 野菜(トマト・ミニトマト、あぶらな科野菜、たまねぎ、なす)	P.4~5

次回の情報は1月中旬頃にお知らせします。

2020年農林業センサスが実施されます

農林水産省・大阪府・市区町村では、令和2年2月1日現在で、「2020年農林業センサス」を実施します。

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。
また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



水稲

今年発生した病害虫を次作に持ち越さないように防除しましょう！

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



成貝

特徴

- ◆食害が激しいのは田植後約20日間までで、成長して硬くなったイネは食害しない。
- ◆年々発生地域が拡大している。

防除のポイント

- ◆刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

縞葉枯病・ヒメトビウンカ



縞葉枯病（ひこばえ感染株）

特徴

- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介されるウイルス病である。
- ◆発病したひこばえをヒメトビウンカが吸汁して、保毒する。

防除のポイント

- ◆一部ほ場のひこばえで保毒虫が確認された。
- ◆ひこばえ感染株は本病の伝染源となる恐れがあるので、早めに刈り株をすきこみ、ひこばえを処分する。

果樹

温州みかん

ミカンハダニ



ミカンハダニによる葉の被害※

特徴

- ◆果実や葉に寄生、吸汁して変色させる。
- ◆日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多発する。
- ◆冬期は低温のため、増殖は抑えられるが、生息はしている。春になり暖かくなると、増殖を開始する。

防除のポイント

- ◆収穫後の園では、越冬期に、**機械油乳剤95**、**ハーベストオイル**、**スプレーオイル**等を散布する。
- ◆樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油乳剤で葉害が生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油乳剤（**ハーベストオイル**等）を散布する方がよい。

カイガラムシ類



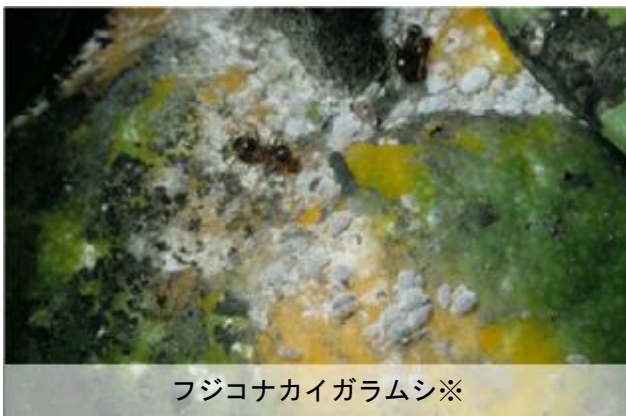
ナシマルカイガラムシ※

特徴

- ◆葉や枝、果実に寄生し、多発した場合は、樹勢が落ち、果実の商品価値を低下させる。
- ◆ナシマルカイガラムシは以前はサンホーゼカイガラムシと呼ばれていた。

防除のポイント

- ◆収穫後の園では、越冬期に、**機械油乳剤95**、**ハーベストオイル**、**スプレーオイル**等を散布する。
- ◆樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油乳剤で葉害が生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油乳剤（**ハーベストオイル**等）を散布する方がよい。



フジコナカイガラムシ※

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ



特徴

- ◆成虫は体長4cm程度。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から10月頃に中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。
- ◆フラスが発生している穴には幼虫がいる可能性が高い。

防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

伐採後の切株について



処分に伴う運搬について

- ◆特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。
例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

詳しい防除方法は技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参照して下さい。

[http://www.jpnn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii\(H3104\).pdf](http://www.jpnn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii(H3104).pdf)

野菜

12月の病害虫発生状況

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
トマト・ミニトマト (施設栽培)			すすかび病		
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな、しろな等)		菌核病			

トマト・ミニトマト(施設栽培)

すすかび病



被害葉 表(左) 裏(右)※

特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、かびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ネクスターフロアブル、パレード20フロアブルなどを散布する。

あぶらな科野菜（キャベツ、はくさい等）

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

菌核病



特徴

- ◆長雨や、強風雨によって発生が助長される。

防除のポイント

- ◆菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との連作を避ける。
- ◆キャベツやはくさい等で、発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤、ロブラール水和剤などを予防的に散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

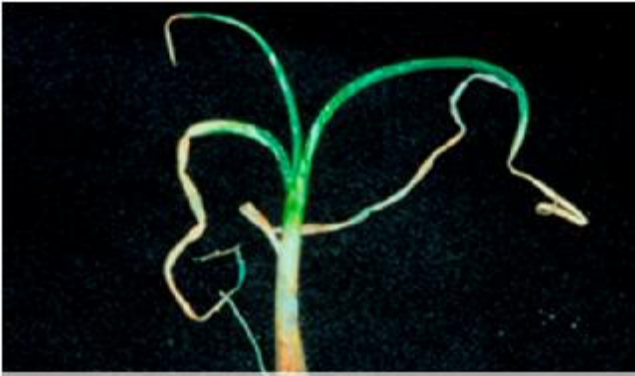
*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

たまねぎ

べと病



べと病（苗における発病状況）*

特徴

- ◆ 苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として来年1～2月に病徴を現し、次作の発生源になる。

防除のポイント

- ◆ ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルを予防的に散布する。

※ジマンダイセン水和剤とペンコゼブ水和剤は同一成分（マンゼブ）。マンゼブの総使用回数は5回以内。

なす

褐紋病



褐紋病（苗における発病状況）※

特徴

- ◆ 施設栽培での育苗期の蒸し込みによる高温多湿で発生しやすい。
- ◆ 幼苗期に地際が侵されると立ち枯れを起こす。

防除のポイント

- ◆ 褐紋病は種子伝染するので、発病した株からは採種せず、健全な種子を使用する。
- ◆ 発生を認めたら、ベンレート水和剤、スクレアフロアブルなどを散布する。